

御明神牧場 初のイベント開催 -親子で楽しむ牧場ふれあい体験-

持続型農業生産技術分野 桃田 優子

11月8日、御明神牧場で初のイベントとなる「親子で楽しむ牧場ふれあい体験」を開催した。参加者は9家族33名で、盛岡市の家族が多かった。募集を始めるとすぐに定員を超えたことから、都市部の住民が畜産に高い関心を持っていることが伺えた。

参加者は、牛舎内でのエサやり、子牛への哺乳、牧草地での子牛やシバヤギとのふれあいクイズ、トラクターの運転などを体験した。哺乳やクイズでは、子供たちは黒毛和種子牛やシバヤギと触れ合い、「かわいい!」「あったかい!」と大はしゃぎ。特に好評だったのはトラクターの運転体験。参加者は技術職員の補助を受けながらトラクターを走らせたり、バールクラブ(トラクターに取付けたロボットの腕のような部品)を操って、直径1.3m、重さ300kg近くの丸めた乾草を持ち上げたりした。このような大型農業機械の操作は参加者にとって「普段できない体験」で、アンケートでは大人にも子供にも一番人気だった。

これらの他、御明神牧場としての特色を生かし、家畜繁殖の研究に触れる体験として、牛の精子や体外受精卵を実体顕微鏡で観察した。



子牛への哺乳を体験

本イベントは初の開催にもかかわらず、アンケートの結果「楽しかった」「また来たい」等の高い評価を得ることができた。来年度以降も未来を担う子供たちに畜産の体験をしてもらうことを目的に、イベントを継続していく予定である。

「第7回フィールド科学体験教室」～稲刈りからご飯が出来るまで～

持続型農業生産技術分野 田口 芳彦

公開講座「フィールド科学体験教室」が、10月5日(日)に寒冷フィールドサイエンス教育研究センター滝沢農場において開催されました。第7回目の開催となる本年は、28名(11家族)の児童生徒及び保護者が参加し、「稲刈りからご飯が出来るまで」をメインテーマに稲の収穫から食卓までの流れを体験しました。最初に稲刈りとはせ掛け体験を行い、昼食には職

員も参加し、「あきたこまち」と「ひとめぼれ」の新米の試食を兼ねた芋煮会を行いました。その後、ハーベスタによる脱穀、コンバイン、もみ乾燥機、粃摺り機、計量袋詰め、精米機による精白までの一連の脱穀調製作業を見学しました。玄米が粃摺り機から出荷用紙袋の中に落ちると、児童生徒は歓声をあげ、玄米を手で触れて感触を楽しんでいました。また、リンゴ「紅

玉」の収穫体験も行いました。このように、参加者に農業の一端に触れてもらうことで、農業に対する関心や理解が深まることを期待しています。当日は天気にも恵まれ、参加者、職員ともに充実した秋の一日を過ごすことができました。



教育
トピックス

滝沢農場における新しい実習の取り組み

持続型農業生産技術分野 中西 啓

これまで滝沢農場では、実際の農業現場における農業生産技術の実践と習得を目的とした農場実習を行ってきました。本年度は従来の実習内容に加え、農学生命課程2年次の学生(主に前後期履修者)を対象に「プロジェクト実習」と称した新たな取り組みを実施しました。本実習では、学生が自主的に栽培管理作業を実践し理解することを目的としており、学生自身が希望する作目(野菜、果樹)を選定し、栽培計画、播種から収穫・調理加工までの作業を体験します。作目ごと9つの班に分かれ、各班につき教員または技術職員1名が指導に当たり、共同して作物の栽培を行いました。学生は夏休み期間中も交代で観察をしながら、除草や収穫に汗を流し、秋には各班で収穫物を調理し、職員も参加して試食会を行い、収穫の喜びを分かち合いました。また、最終日には成果発表会を開催し、各班が栽培結果や反省点、感想などを



報告しました。今年度が最初となる取り組みでありましたが、履修した学生には有意義な経験となり、当初の目的をおおむね達成できたと考えています。次年度以降も継続し、より充実した実習としたいと考えています。

学生の声

農学生命課程 合川洋平

この実習は水稲や果樹ばかりでなく、普段気にも留めない選別作業や味噌作り等、とかく盛り沢山の内容でした。非常に自主性が重視された班ごとの栽培実習も新たな感動や疑問を喚起しました。今回、農業の様々な準備段階から収穫までの大変さや喜びを、一年を通して実体験として学ぶことができました。来年以降の人達も、この喜びを是非とも経験してもらいたいです。

農学生命課程 荒川美美

1年を通して農場実習をやってみて、私は農作物に対して「消費者」ではなく「生産者」として接することが出来ました。生産する側として田植えや畑での作物作り、樹の剪定作業などをして農業の大変さがよく分かり、それと同時に収穫の喜びも実感出来て大変勉強になりました。農場実習をやった本当によかったと思います。

野生動物管理学実習を終えて

遠藤 歩 (森林科学講座3年)

私は、昨年の夏休みに野生動物管理学実習に参加するために御明神演習林に行きました。この実習は選択科目だったので当初参加するかどうか迷っていましたが、講座のメンバーとお泊りできる数少ない機会だったので参加することにしました。

この実習では、コウモリを追いかけたり、蛾を捕まえたり、ねずみを捕獲したりと、普段の生活ではなかなかやらないようなことを行いました。コウモリを追いかける実習では、バットディレクターという機械を使い、コウモリの位置を探しライトをあててコウモリが飛んでいる姿を見るものでした。

いろいろな虫や動物たちと触れ合える楽しい3日間でした。



野生動物管理学実習(御明神演習林)

林道工学実習を終えて

瓜田元美 (森林科学講座3年)

林道工学実習は、10月の第一週目に滝沢演習林で行われる4泊5日の宿泊実習です。この実習は、実際に滝沢演習林内に林道を通すことを想定して、自分達で林道の設計を行います。明るい昼間の間は森林内で測量等の外業、その後宿舎に戻り、夜間は昼中に測量した結果を図化する作業等を行いました。作業が予定の日程どおりに進まないことなどもありましたが、無事に終了することができました。4泊5日と今までの中で一番長い実習でしたが、終わってみればあっという間だったと思います。また、この長い実習の間、演習林の宿舎で生活することになりましたが、施設がしっかりしていたので特に不自由なく、過ごせたと思います。



林道工学実習(滝沢演習林)

エクステンション トピックス

哲学者内山節氏をお招きしての第3回「哲学の森」開催

循環型森林管理技術分野 山本信次

平成20年8月30日(土)、31日(日)の両日、本センター滝沢演習林を会場として、哲学者内山節氏(立教大学大学院教授)をお招きしての第3回「哲学の森」が開催された。

本イベントは、本学演習林開設100周年記念講演会に、内山氏を講師としてお招きしたことがきっかけとなり、以来毎年開催されているものである。本年度の講演テーマは「滅びゆく時代・創りなおす時代」であり、定員一杯35名の参加者を迎え、素晴らしい講演と熱のこもった質疑応答が行われる実りあるイベントとなった。

農山村に居住しながら、現代社会の矛盾をつき、ムラや農

の視点から見た社会の在り方について発信を続けておられる内山氏の著作には熱心なファンも多い。本イベントは内山氏から2日間にわたって、比較的少数でじっくり話を聞けると同時に、意見交換の機会もあることから人気を博している。来年度も引き続き開催の予定である。



第5回 滝沢農場一般公開

持続型農業生産技術分野 西 政佳

滝沢農場では毎年11月に一般公開を行っており、本年度は11月9日(日)に開催しました。今年はリンゴの摘み取りをはじめ、野菜、新米、味噌などの生産物販売などの恒例の企画に加え、新たな試みとして、農業にもっと親んでもらうために大根の抜き取り販売も行いました。また、毎年好評の農業・園芸相談、実習風景や研究成果のパネル展示、農業機械の展示・試乗、乗馬体験も行いました。さらに、今年は御明神牧場からは仔牛とシバヤギとのふれあい、焼き肉販売、滝沢演習林からはリース作り体験などの企画協力がありイベントが盛り上がりました。



今年で5回目と言うこともあり、開場前から多くの人々が詰め掛け、開場直後にはほどの売り場も大勢の人に囲まれていました。リンゴの摘み取りは今年も人気が高く、皆袋いっぱいリンゴを詰め込んでいました。また、仔牛やシバヤギの周りには子供たちが集まり、頭を撫でたり、草をあげたりして、楽しそうにはしゃいでいる姿が見られました。天候に恵まれたこともあり、1000人を越す来場者数がありました。来場者からのアンケートには「楽しかった」、「動物とふれあえて良かった」などの感想が多く寄せられ、主催者側としては大変うれしく思っております。一般公開を開催するにあたり、農学部の先生方をはじめ学生ボランティア、御明神牧場ならびに演習林の職員の協力により無事終了することが出来ました。

技術系職員の研修の取り組み

循環型森林管理技術分野 佐々木一也

寒冷FSCの技術系職員は、毎年度農学系技術室が実施する技術職員等研修に参加している。研修の構成は、大学技術部の全体研修(講話:半日)をカリキュラムの一部に位置づけるほか、農学系技術室で実施する技術・業務発表会(半日)、講義(一日)および現地研修となっている。今年度も、H20年11月～H21年1月の期間内の3日間で実施された。なかでも技術・業務発表会は、技術系職員が日常の業務を通じて経験したこと、学んだこと、考えたこと、今後活かすべきこと等を再整理したり、取り組んだ調査・研究の成果をまとめ、発表したりするよい機会となっている。講義は、3つの講義と



特別講義を設けており、このうち特別講義については3年前から他学部の教員に講師をお願いしている。専門(分野)を超えた研究内容、知識、見識に、新鮮な感覚で触れることができ、よい刺激をいただいている。農学部の教員も含め、講師をお引き受けいただいた先生方に改めて感謝したい。

【技術・業務発表】「手鉋とノミの調整」谷藤／「滝沢農場におけるブルーベリー樹の凍害発生状況」村上／「御明神牧場における各種飼料給与試験の成果と今後の展開」佐々木(修一)／「里山を育てる ー滝沢演習林の一年ー」齋藤／「滝沢演習林のザトウムシ相とスキの枝打ちが個体数動態に及ぼす影響」藤田

【講義】「いわての野菜」金澤(特別講義)／「食品の安全性 安心・安全とは何か?」塚本／「細胞のストレス応答に関する研究」平／「リンゴ樹の樹形制御ーカラムナータイプリンゴ樹についてー」渡邊(敬称略)(以上、H21年度)

地域への貢献の展開 (平成20年度)

一般市民・児童生徒対象

| | | |
|-----------------------------------|------|------------------|
| 盛岡市の森と住まいを考える会「植林体験ツアー」 | H20年 | 4月26日(土) |
| 第75回フィールドセミナー「植物観察シリーズ(3)」 | H20年 | 6月1日(日) |
| 第76回フィールドセミナー「総合的学習時間における森林学習21」 | H20年 | 6月2日(月) |
| イーハトーブ森と家づくりフォーラム「住宅～製材見学バスツアー」 | H20年 | 6月22日(日) |
| 第77回フィールドセミナー「総合的学習時間における森林学習22」 | H20年 | 6月30日(月)～7月1日(火) |
| 第3回 哲学者 内山節氏を迎えての「哲学の森」 | H20年 | 8月30日(土)～31日(日) |
| イーハトーブ森と家づくりフォーラム「小岩井農場の森づくり」 | H20年 | 10月4日(土) |
| 第7回フィールド科学体験教室「稲刈りからご飯ができるまで」 | H20年 | 10月5日(日) |
| 第78回フィールドセミナー「植物観察シリーズ(4)」 | H20年 | 10月5日(日) |
| 第1回御明神牧場一般公開「親子で楽しむ牧場ふれあい体験」 | H20年 | 11月8日(土) |
| 第79回フィールドセミナー「親子で楽しむシリーズ(5)」 | H20年 | 11月9日(日) |
| 第5回滝沢農場一般公開 | H20年 | 11月9日(日) |
| 盛岡市の森と住まいを考える会「もりおかの木を使った小さな家見学会」 | H20年 | 12月14日(日) |
| 第80回フィールドセミナー「かんじきをはいて冬の森を歩こう」 | H21年 | 2月22日(日) |
| イーハトーブ森と家づくりフォーラム「200年住宅見学会」 | H21年 | 3月8日(日) |
| 第81回フィールドセミナー「親子で楽しむシリーズ(6)」 | H21年 | 3月29日(日) |

職業的専門家対象

| | | |
|--------------------------------------|------|-------------------|
| 第1回フォレストテクニカルエクステンション「岩大型作業路普及プログラム」 | H20年 | 4月21日(月)～5月8日(木) |
| 第5回森林環境教育パワーアップスクール「森林生物多様性コアプログラム」 | H20年 | 5月19日(月)～23日(金) |
| 小中高等学校教職員セミナー「森林環境教育にかかわるための森の講座」 | H20年 | 8月5日(火) |
| 第2回フォレストテクニカルエクステンション「岩大型作業路普及プログラム」 | H20年 | 9月1日(月)～2日(火) |
| 第3回フォレストテクニカルエクステンション「岩大型作業路普及プログラム」 | H20年 | 9月29日(月)～10月3日(金) |
| 第4回フォレストテクニカルエクステンション「岩大型作業路普及プログラム」 | H20年 | 11月21日(金) |

岩手大学農学部における卒業論文・修士論文テーマ公募に関するお知らせ

岩手大学農学部では岩手大学中期計画に基づき、地域社会のニーズの吸い上げと研究結果の地域社会との共有化を目的とし、卒業論文・修士論文のテーマを公募することとなりました。農学部における卒業論文・修士論文の研究のテーマとして取り上げてもらいたい事項の御希望がございましたら、下記までメールまたはFAXにて御連絡ください。折り返し、御連絡し詳細について御相談させていただきます。御応募をお待ちしております。

注) 卒業論文・修士論文のテーマは、学生・院生自身の希望も重視して設定されます。御応募いただいたテーマが、そのままの形で、すぐに研究に移されるかどうかについては確定できない部分もございますことをあらかじめ御了承ください。

【応募先】〒020-8550 岩手県盛岡市上田3丁目18-8 岩手大学農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター事務部
FAX: 019-621-6107 E-mail: fsciu@iwate-u.ac.jp

岩手大学農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター

〒020-8550 盛岡市上田3丁目18-8 TEL: 019(621)6234

E-mail: fsciu@iwate-u.ac.jp http://news7a1.atm.iwate-u.ac.jp/fsciu/